

合同研修会モデル実践記録

子どもの実態を共通した見方でとらえ、自分の指導を振り返り、実際の指導に結びつけることにより、幼小のなめらかな接続を目指して実践した。

参加者：幼稚園担任 2 名、小学校担任 2 名

進行役：幼児教育センター長期研修員

資料を配り、合同研修会の目的を説明する。簡単に自己紹介をしてもらう。(5分)

話を聞く場面の幼児の写真 1 と児童の写真 2 を見せて、子どもたちが話を聞いていると思うか、、、 のいずれかの札を上げてもらう。(10分)

司会「1が全員 だったが、どうしてそう思ったのでしょうか。」

小「ちがっている子もいたが、全体としてしゃべっている人の方を向いている。」

幼「全体が落ち着いている。」

幼「うしろの女の子の表情がやわらかい。」

小「乗り出してのぞきこんでいる女の子がいるが、先生が何か物を使って説明しているのでは。顔の向きが話している人の方を見ている。」

司会「2はどうでしょう。」

小「顔がバラバラ、ちがう方向を向いている。」

小「全体的に見ると、どちらとも言えない。後ろの方の子が聞いていない。」

幼「後ろを見たりしているが、必要のない話なのかなあ、必要があることなのかなあ。これだけでは、聞いているかどうか分からない。」

保育ビデオ『ここだからね せんせい』の一場面を視聴して、学級全体に話をする時の教員の指導について話し合ってもらおう。(18分)

司会「先生の意図は伝わっていたでしょうか。」

幼「この前の段階がわからない。班を作る必要感が伝わっていない。先生の思いが自分たちのこととして受け止められていない。」

小「幼稚園の様子がわからないが、2つの条件(男2女3、男3女2)があるのは大変。『けんちゃんいい?』という言葉は、注意をうながす、分かっているかいという意味。」

小「同じことを1年生でやるとしたら、男女別に2つに分けてからやる。あの黒板の絵によって、理解できて意図は伝わっているが、よくグループがくれたと思った。先生が話をしているときに前の席の子は、聞いてそうで聞いていない、先生の視界に入っていない。自分も経験があるのだが、前の席の子で話がとんでしまって、聞こえていないことがある。」

幼「今、年中の担任であるが、年長になってもグループを作らせるのはむずかしい。何で、グループになるのかという意図が受け入れてもらっていない。先生の視線が高い所にあるから、子どもたちの表情を見ても伝わっていないと思う。私も経験があるのだが、手前にいる子が聞いてそうで聞いていないことがある。」

司会「『けんちゃんいい?』という言葉についてどう思いますか。」

幼「よく言ってしまう。けんちゃんだけでなく、みんなを自分の方へ引きつけたいという

思いがあったのでは。」

幼「信頼関係ができていない時期に『ちゃんいい?』という言い方をしてしまう。」

小「『けんちゃんいい?』と言ったことをフォローする必要がある。よいところを見つけてほめたり、よさをみんなに紹介したりする。」

司会「それでは、話を聞いていない子に対してはどうしたらいいんでしょう。」

幼「何かはじまるのかなと気付かせたり、先生の方を向かせるよう手遊びをしたり、先生と子どもと一緒に動いたり、体験したり、話を聞く姿勢、楽しい雰囲気をつくってから『大事なことを言うよ』と話をする。」

幼「自分の気持ちを言うことを心がけている。根本では、先生と子どもたちとの信頼関係を大切にしている。」

小「聞かせることでは、よく聞いている子をほめてあげる。先生が真剣な表情をする、大げさに演じる、自分の気持ちが子どもたちの心に伝わるように話す。」

小1の事例『じっとしてられないT男』の資料を読んで、話を聴く力を伸ばす指導について話し合ってもらおう。(18分)

司会「『校長先生の話がわかったよ』と言ったT男に、この後どんな言葉かけをしますか。」

幼「『え、本当。よく分かったんだ、先生うれしいな。』と言う。」

小「『あ~そうなの』と一応受け入れるけど、『今度は動かないでちゃんと座っているといいかもね。』と言ってしまう。」

幼「ひとまずは『よく聞いてよかったね。』と言う。『今度は動かないで聞こうね。』とその後言う。」

小「『じゃあどんなお話だったんだろう、話をしてみてごらん。』と聞くけど、この子はわかっていると思う。『えらいね。』と伝えて、『話をしている人の前で動いたりすると、話をしている人に失礼だよ。』と、教えたいと思う。」

司会「T男が『よくわかっている。』と言っているから聞いていたと考えたのですか。」

小「態度についてはよくないので、今度はきちんと座っているように話す。」

幼「小学校とはちょっとちがうが、聞き方を知らないのでは。じっとして聞くという経験がない、頭でわかっているも身をもってやったことがない。ほめてあげながら教えていくことも大切。」

司会「小学校もちがいはないのでは。」

幼「本を読み聞かせをしていると、ちゃんとした態度でなくて、聞いていないと思っても聞いていることがある。形や表面的なところではなく、内面のところを見るのが大切。話を聞く態度についてもきちんと教えていかななくてはいけない。」

資料5を配る。

司会「この担任の先生も、T男君をよく見たり、話を聞いたりしてT男君との関係ができてきたら、T男君は落ち着いた態度が見られるようになったそうです。」

保育所保育指針・幼稚園教育要領・小学校学習指導要領から「話を聞く」に関係することをまとめた資料を見て、幼児教育と小学校教育の教育内容はつながっていることを確認してもらおう。何か気がついたこと、意見があったら出してもらおう。(19分)

- 幼「今、年長をもっているが、小学校に入学する際の段差を少なくしてあげたい。幼稚園でも小学校でも、一人一人の子どもたちを大切にし、信頼関係が成立していることが大切だと思った。」
- 小「保育所・幼稚園、小学校も話し手と聞き手が一対一となる活動を中心に置くことが重視されている。」
- 幼「小学校1、2年生でも一対一で話をすることが大切というのが書いてあるので、幼稚園における指導の大切さを感じる。」
- 小「自分の話を聞いてもらうことにより、人の話も聞けるようになる。話を聴くときには、尋ねたり共感したりするなど、双方向的なやりとりの中で聴くことが大切であるということが確認できた。」
- 司会「小学校では話をするときに集団を相手にしているイメージがあるが、一対一ということがちゃんと小学校学習指導要領解説国語編に書かれています。私も、この資料を作成することで、幼小の学習指導要領のつながりについて初めて考えました。読んでみると、小学校も幼稚園も指導内容にはあまり違いがないと感じました。」

日常の指導を振り返り、幼小のなめらかな接続を目指し、今後自分たちの指導をどうつなげていったらよいか考え、話し合ってもらおう。(10分)

- 小「聞いてもらえる喜びを、休み時間等の一対一の時間をもてる時に、子ども達に感じてもらえる様にしていきたい。聞く態度として、『静かに』とか、『姿勢よく』と言うだけでなく、うなずいたり、相づちを打ったりなどのリアクションを教師が少しオーバーにとっていくことで、聞いてもらえたという実感や、聞こうという気持ちを、一斉指導や発表する場面の中で育てていければいいと思う。」
- 幼「話を聞くことについて発達に応じた指導をしっかりしていき、小学校生活の中での話を聞くことの基盤を作りたい。このことは、どの年齢においてもいえることで、学習指導要領の中でも確認できた。自分の話を聞いてもらうために、相手の話を聞くことの重要性を今後も伝えたい。」
- 小「教師は、子ども同士が話をしている場面でも良い聴き手になることが大切である。また、教師が話をするときには、簡潔で明確な内容を心がけたい。興味を引くように、必要感を感じさせるように話をしたい。」
- 幼「まずは、子どもの話を受け入れる。話しやすい雰囲気や教師が一生懸命に聞く姿勢ができていかどうか、自分自身の保育を見直していきたい。小学校へのつながりを考え、幼稚園の中での子どもの育ち、4歳児での話の「聞き方」5歳児での「聞く力」の育て方といった、年齢やその幼児の発達にあった指導を幼稚園の中で見通していくことが必要だと感じた。」
- 小「授業を公開し合い、それぞれの指導の仕方の実際を学び合いたい。参観することによって、幼稚園での生活の様子を少しでも分かった上で1年生を指導するのと、そうでないのとでは違いがあると思う。」